

セント・ルカ産婦人科

LUKE MAGAZINE WINTER

# ルカ新聞

No.24  
2011.12.



## 柘榴

だから言っておく。何を食べようか、何を着ようかと  
思い悩むな。鳥のことを考えてみよ。種も時かず、  
刈り入れもせず、納屋も倉も持たない。だが神は鳥  
を養ってくれる。あなたがたは、鳥よりもどれほど  
価値があることか。野原の花を考えてみなさい。働  
きもせず、紡ぎもしない。しかし栄華を極めたソロ  
モンでさえ、この花ひとつほどにも着飾ってはいな  
かった。今日は野にあって明日は炉に投げ込まれる  
草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして  
あなたがたにはなおさらである。思い悩むな。あな  
たがたの父はあなたがたに必要なものはご存知で  
ある。

ルカによる福音書12章22〜30節

待合室に古い十字架を飾っています。以前、エル  
サレムで学会があったとき、手に入れたものです。  
普段はお土産などまず買うことはないわたしです  
が、このときはカラスケースの中にあつたこの十字  
架が、他のいろいろな品の間からわたしに呼びかけ  
ているような気がして値段も見ずに購入しました。  
証明書によると4〜7世紀に作られたものだそうで  
す。このような歴史遺産は、イスラエル国外持ち出  
し禁止だということを、後に知りました。しかしこ  
の十字架は、わたしの袖を引っ張っていました。新  
しい病院の計画については、前号のルカ新聞に書き  
ました。移転のきっかけは、ある患者さんの言葉足  
の便が悪くて...でした。そして移転したら思いが  
けず患者さんが増え、妊娠率も上がりました。十字  
架も移転も、神様はそのときにわたしに何が必要か  
お分かりになっておられます。そしてしきりに呼び  
かけてくれます。しかし、心が生きていないと  
その神様のお言葉は聞こえません。そのときには、  
この「野の花」「空の鳥」を思い出してみましょ  
う。わたしたちは花や鳥よりも神様にこそは大切であ  
り、しかも何が必要かお分かりになっておられます。  
「なぜだろっ」と思うことがあつても、この神様  
のお言葉を聞くようにしましょ。きっと良い結果  
になると思ひこころが、ごまかすま



## 巻頭言

院長 宇津宮 隆史

新しい病院に引っ越してきて5ヵ月が経過した。病院の引越しとはこんなにもきついものかと思った。スタッフの強力な行動力と医療関係業者さんのご協力のおかげで、6月22日に引っ越し、どうにか診療開始にこぎつけたのは7月1日であった。

目立った変化といえば、患者さんが増えたこと、妊娠、特に体外受精の妊娠率が上昇したことといえよう。交通の便利が良くなったので患者さんが通院しやすくなったのであろう、新患者数が目立って増加したし、当院を卒業した元患者さんが2人目、3人目を希望してこられるようになった。このように赤ちゃんがほしいと思っている人々が、気軽に容易にアプローチできるということは、予想以上の成果である。少しでも早く、検査、治療にとりかかることが赤ちゃんを授かる最も重要なポイントである。最近では体外受精の平均年齢が40歳前後となっており、すでに妊娠困難範囲である。できれば35歳以前に生み上げてほしい。そういう意味で通院が容易になったメリットを生かしたい。

また、体外受精の妊娠率は、特に方法を変えたわけではないが、クリーンルームの環境が良くなったからであろうか、はたまたスタッフの意気が向上したからであろうか、妊娠率が向上し、特に凍結胚移植では常に妊娠率50%を超えている。これが永遠に続くならいいが、そうはいかないと思う。慎重に心して取り組まねばならない。

また、手術、特に腹腔鏡手術が増加した。週に10人以上のこともある。子宮筋腫の腹腔鏡手術も行っている。当院では、その後に赤ちゃんを希望する人がほとんどであるから、その手術手技については多方面から検討し、方法を考えねばならない。極力その後の妊孕性を考慮した方法を選択しなければならない。手術による内性器へのダメージは極力回避しなければならない。そのための方法を新たに開発すべくプランを考えている最中である。

うれしいことに新病院になって着床前診断(PGD)を行った人が妊娠し、卒業できた。染色体、遺伝子異常を胚移植前に検査し、正常胚を移植する。書けば簡単であるが、その手技は本当に高度の知識と技術と倫理観を要求される。ESHRE(ヨーロッパ生殖医学会)が中心になって

データ管理しているが、日本からは5カ所の大学や病院が登録している。われわれもそれに参加しており、今後も患者さんとよく話し合って、また当院倫理委員会(委員長:日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師)の審査も経て、メリットのありそうな場合には積極的に推進してゆきたい。PGDについては意義の評価が分かれているが、Dr. S.Munneの言うように、基本的に高度のART技術を持った施設で行えば有意義であろう。今後は高齢者(35歳以上)を中心にした胚移植前の良好胚の選別、移植を必要とする患者さんたちが増加するであろう。慶應義塾大学との共同研究として、厚生労働省科学研究費成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業、生殖補助技術で生まれた子ども3,000人の調査「生殖補助医療により生まれた児の長期予後の検証と生殖補助医療技術の標準化に関する研究」が始まった。Preliminaryな調査として2008年度に生まれた子どもの調査を行なったが、すでに3,000人近くが回答してくれた。現在その回答を集計中で、結果が出次第、慶應義塾大学から患者さんにフィードバックする予定である。Prospectiveな調査としては2011年度分から始まる予定で、これを15歳まで継続する予定である。すばらしい計画で、このような大規模かつ長期間の調査は世界的にも類を見ない。結果はそのままわれわれの行っている生殖医療の安全性を示してくれるであろう。

今年、来年、再来年と、非配偶者間医療の問題点についてかかわっていく。今年には日本受精着床学会において提供精子で生まれた児(といっても30歳の方)の話や、野田聖子衆議院議員の話を中心にパネルディスカッションを組んだ。来年、再来年にもこの件についてのシンポジウムかパネルディスカッションを組みたい。なぜなら、不妊治療は根本的には生まれてくる子どものためにあるのである。生殖医療を行う時点でのインフォームド・コンセント時にはまだ存在しない、生まれてくる子の権利を守ってあげなければならないのは、われわれ生殖医療を行うものの義務である。

児童養護施設 社会福祉法人 別府平和園の理事長に推挙されて1年が経った。毎回のケース会議に出席してみて、平和園のスタッフがいかに複雑、困難な環境の子どもたちを深い愛情を持って育て、向き合っていることか。本当に頭が下がる思いに加え、このスタッフに任せておけばこの子どもたちも安心だと思える。ただ、これらの中にはその努力を超えた困難さを秘めたケースもあり、われわれはその点を指摘し、改善する方策を考え、スタッフが本来の能力と技能を有効に発揮できる環境形成を模索しなければならない。そのためにも、今後は少舎制から小規模グループケア、ファミリーホームを中心とした養護施設と里親制度への対応も考えてゆかねばならない。これらの構想が子供たちに本当に心安らぐ場所を提供できる可能性を持つと思われるからである。

生殖医療で生まれてくる子どもも、平和園で育つ子どもも、その権利と福祉はわれわれが守らねばならない義務を負っていると強く思うものである。





# 研究室だより

6月22～23日に新病院へ引越し作業が行なわれました。研究室の一番の懸案事項は、患者さんよりお預かりしている凍結精子・卵子・胚の移送でした。引越し業者を選定する際にも、いかに凍結タンクを丁寧に移送してくれるかを重点において決定しました。トラックの荷台はほとんどゆれないというエアサスペンショントラックを使用し、交通量の少ない深夜に移送することとしました。

万が一の追突事故をさけるために後続車も連れて、ラボスタッフ2名がトラックに同乗し出発！



引越し当日朝、スタッフ全員集まって『がんばるぞ!!』  
前列のおそろいのTシャツは研究室スタッフです



しっかりやってよ！



新病院では院長先生がお出迎え



液体窒素量に変化がないか確認

何事もなく新病院に到着し、念のために液体窒素量を測定したところ出発前とまったく変化はありませんでした。万全を期していたとはいえ、やはりほっとした瞬間でした。とても親身に考えていただき、心をこめて移送していただきました運送会社の方々にも感謝の気持ちでいっぱいです

引越しはなにかと大変でしたが、新病院のクリーンルームは今までより広くとても快適です。また、培養室内に2箇所の窓ガラスを設け（精子処理を行う準クリーンルームと胚を扱うクリーンルーム）、患者さんに培養室内を気軽に見ていただけるようになりました。少しでも安心して治療を受けていただけるようになったのではないかと考えています。

# 看護部だより

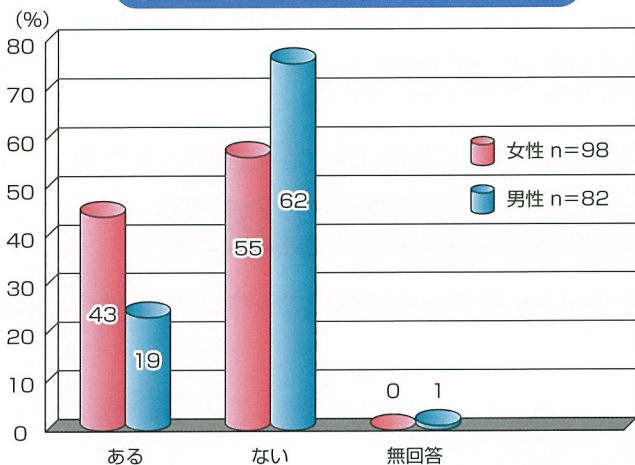


## 不妊治療中患者の性生活に関する意識調査

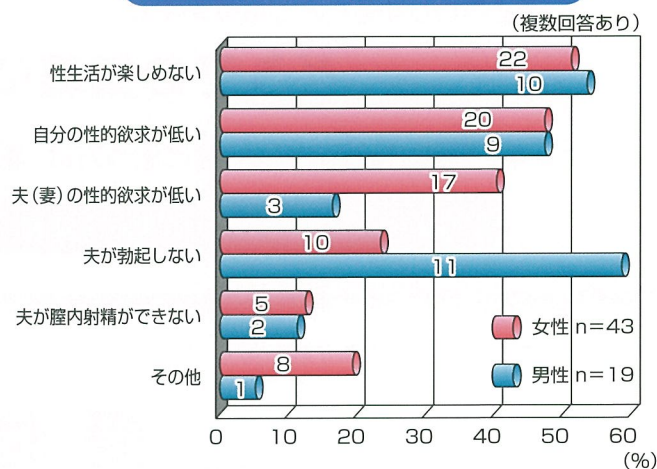
看護部 二宮 睦

「タイミング治療がストレスになっている」と訴える患者さんが見られることから、タイミング治療中の患者の性生活の現状と意識を調査しました。

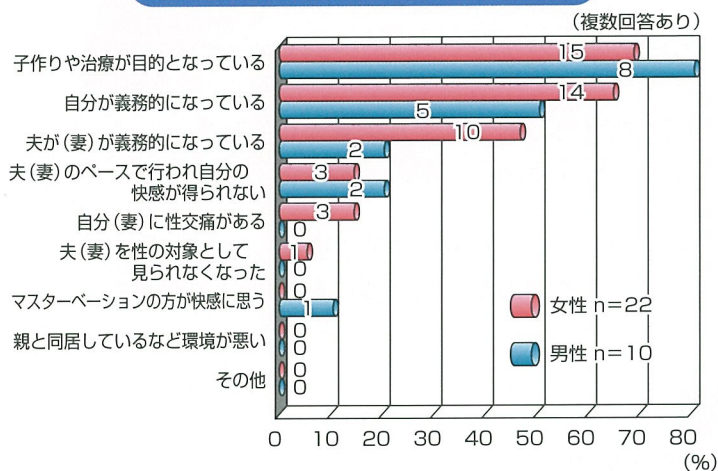
### 性生活の悩みがありますか？



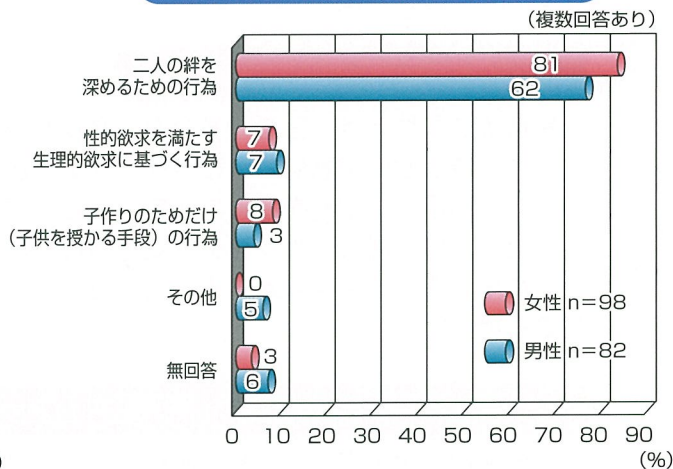
### 悩みの内容は？



### 性生活が楽しめない理由は？



### あなたにとって性生活とは？



性生活の悩みは男性より女性が多い事が分かりました。悩みの内容は、男性は「勃起しない」が多く次に「性生活が楽しめない」、女性は「性生活が楽しめない」が多く次に「自分の性的欲求が低い」でした。

性生活が楽しめない理由としては男女共に「子作りや治療が目的となっている」が多く子供を作らないといけない、診察なので性生活をしないといけないなど特に女性が義務的に感じているようです。一方で子供が欲しいと思っても、性生活は二人の大切な絆として位置づけられているのが分かりました。

### まとめ

本来は夫婦の絆を深めるための性生活が治療を始めてから妊娠が目的の義務的なものとして捉えられ、楽しめないことや、性的欲求の低下につながっていると思われます。

また、男性は性生活の日を指定されるとプレッシャーになっていることがわかりました。

私たち医療者は治療にとらわれず患者の悩みに添った支援のあり方を考えていくことが必要と思われます。

## 心理相談室より

### 一人で悩んでいませんか？

- 治療のこと、夫婦関係について、今後のこと、などなど。  
いろいろなことでところが落ち着かない、考えがまとまらない。
- そんな時、一人でなんとか頑張ろうとしている患者さんがたくさんおられます。
- 不妊治療は身体もこころも大切にすることが重要です。
- 人に話すことで気持ちがすっきりしたり、なんとなくもやもやしていたものが整理されたりすることがありますよ。



どうぞお気軽にご利用ください。

- 相談してみてもいいなと思う方は、看護師、受付スタッフに声をかけてください ●●●

**料金：一回一時間を目安に1380円(体外受精の方は無料)**

## 受付より



### 予約システムについて

新病院になり7月1日よりインターネットを利用した受付予約システムを導入しました。

予約は待合室に設置している予約システムから予約を取る方法と、携帯電話などを使いインターネットを利用して予約を取る方法を行っています。

今後もより一層の予約システム向上のために、インターネットからの予約をお願いいたします。患者さんの待ち時間を軽減することを目的としたシステムです。予約時間に遅れないよう受診してください。

### 入院、手術をされる患者さんへ

高額医療が適用される手術があります。(保険適用分のみ)

入院が決まり次第『限度額適用認定証』の申請を行い、早めの提出をお願いいたします。

### 入院費の支払いについて

入院費のお支払いは、金融機関のキャッシュカードをお使い下さい。

受付にて請求書とキャッシュカードをご提示ください。(手数料は当院にて負担いたします)

お支払いの期限は請求書をお渡ししてから原則1か月としております。

ご相談がありましたら受付までお願い致します。

### 助成金について

今年度の申請が2012年3月31日までとなっております。

今年度より申請回数、申請期間が変わっておりますので早めの申請をお願いいたします。

# 2011 アメリカ生殖医学会(ASRM)参加報告

2011年10月14日～2011年10月21日

アメリカ オーランド

フロリダ州のオーランドで開催されたアメリカ生殖医学会に参加させていただきました。オーランドの気候は1年を通して温暖だと聞いていましたが曇空が続いたせいか日本の10月とほぼ変わらないように感じました。

近くには、ケネディスペースセンターがあり、シャトルの組み立て工場や発射台、ロケットを見学し、月へのバーチャル飛行を楽しむことができました。

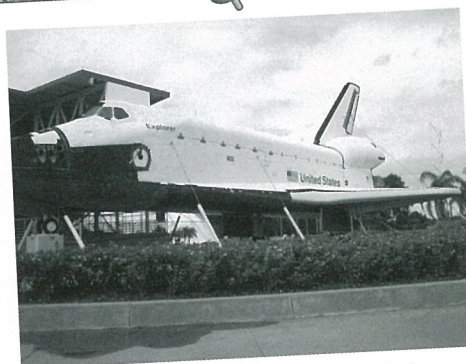
学会では、胚や遺伝子に関する発表が多く、世界の最新技術や話題を習得する事ができ、とても刺激になりました。



学会会場にて、院長先生、由布子先生  
スタッフと記念撮影しました



院長先生は  
オーラル発表をしました



実物大のスペースシャトルを  
見ることができました

## 2011年 後期を振り返って

<p>07.01 セント・ルカ産婦人科新病院開院 07.01 受付予約システム稼働 07.09 第171回 体外受精教室 参加者36名 参加(平松、越名、長木、相澤、二宮、赤嶺、後藤裕、河邊)</p> <p>07.09 第5回 第7期オリブの会 参加者6名 07.12 第148回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院 07.14 大分県立看護科学大学(大分)講義 参加(山路、青木、熊迫、足立直、斉高、赤嶺、関、後藤裕、指山) 講義:「不妊症講座」(院長) 「不妊症の対象の理解」(上野桂子)</p> <p>07.17 第10回 生殖バイオロジー-東京シンポジウム(東京) 参加(院長) 発表:「凍結施行前-融解後における単一胚盤胞の呼吸量変化の検討」(小池恵) 「体外成熟培養 (IVM) における出産時の 臍帯血メチル化インプリントの解析」(佐藤晶子)</p> <p>07.21 株式会社バズラボ フリーマガジン「ジネコ」号号(Vol.11)特別副誌(東京) 参加(院長) 07.23 第45回 「赤ちゃん~今ならさっと授かる~」講座(大分・トキハ会館) 参加者58名 講師(後藤裕(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生) 参加(平松、越名、佐藤、坂本、手島、足立直)</p> <p>07.28 JISART フォローアップ部会(大阪) 参加(上野) 07.29 中部学院大学(岐阜)人間福祉学部 准教授 宮崎淳先生院内見学のためご来院 07.31 日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会(別府) 参加(越名、佐藤、大津、松元、関、越光、篠田、後藤裕、河邊、院長)</p> <p>08.04 第51回 日本産科婦人科内視鏡学会(大阪) 参加(関、越光) 発表:「予見希望患者に対するLaparoscopic myomectomy(LM)と 2-nd look laparoscopy (2-nd)の所見について」(院長)</p> <p>08.04 日本産科婦人科内視鏡学会 第6回 技術認定コンセンサスマーケティング(大阪) 参加(院長) 08.04 第17回 学術研修会(大阪) 参加(院長) 08.06 第172回 体外受精教室 参加者36名 参加(山路、金子、熊迫、相澤、二宮、赤嶺、河野) 大分ダイナゲスト研究会(大分) 参加(河邊、院長) 08.11 胚培養士技術研修 札幌厚生病院(北海道) 谷村給美さん(12月24日まで) 08.15 第149回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、伊藤節彦先生ご来院 08.16 第3回 Korea-Japan ART Conference(韓国) 08.20 講演:「Epigenetics of assisted reproduction」(院長) 08.20 第6回 第7期オリブの会 参加者4名 08.26 日本家族心理学学会第28回大会(鹿児島) 自主シンポジウム:「JISART 倫理委員会での非配偶者間体外受精に関する ガイドラインの実際と問題」(上野桂子)</p> <p>08.27 第59回 新患教室 参加者59名 参加(平松、足立小、佐藤、手島、川村、後藤裕) 08.27 第18回 臨床細胞遺伝学セミナー(東京) 参加(城戸、大津) 08.27 減菌および感染対策研究会 感染管理基礎講座(大分) 参加(坂本) 08.31 株式会社バズラボ フリーマガジン「ジネコ」冬号(Vol.12)取材</p> <p>09.03 第173回 体外受精教室 参加者40名 参加(工藤、谷村、大津、相澤、岡田、赤嶺、越光) 09.06 第150回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、伊藤節彦先生ご来院 09.09 第29回 日本受精着床学会総会・学術講演会(東京) 参加(上野、河邊) パネルディスカッション「非配偶者間の生殖医療を考える」座長:院長 シンポジウム講演:「妊孕性温存のための造血疾患患者からの卵子採取及び 凍結保存の現状と課題点」(院長) 発表:「非配偶者間生殖医療(提供精子人工授精: AID) で生まれた人たちの意見」 (院長) 「抗がん剤(シクロフォスファミド:CPA) 投与によるマウス受精能への影響 -投与量及び薬剤残存期間の検討-」(小池恵) 「胚移植不能:全胚凍結不能時の説明における胚培養士の関わり方」(城戸京子) 「凍結施行前と融解後における胚盤胞の呼吸量変化の比較検討」(熊迫陽子) 「タイミング治療患者の性生活に関する意識調査」(二宮睦) 「自己注射におけるヒヤリ・ハット報告~重大事例を振り返って~」(後藤裕子)</p> <p>09.09 日本受精着床学会 平成23年度理事会(東京) 参加(院長) 09.09 The 4th Congress of the Asia Pacific Initiative on Reproduction. 第30回 日本受精着床学会総会・学術講演会 第2回 組織委員会(東京) 参加(院長) 09.09 JISART 看護部門実施規定検討会(東京) 参加(後藤裕) 09.10 日本受精着床学会 平成23年度評議員会(東京) 参加(院長) 09.10 第36回 JISART 理事会(東京) 参加(上野、院長) 09.10 16th World Congress on In Vitro Fertilization / 6th World Congress on In Vitro Maturation (東京)</p> <p>09.11 ランチョンセミナー1座長:院長 09.17 日本生殖看護学会学術集会(東京) 参加(小池、城戸) 09.17 大分県三医会合同学術講演会(大分) 参加(河邊、院長) 09.17 第47回 ガーネットサークル OG 1名、参加者5名 09.24 第46回 「赤ちゃん~今ならさっと授かる~」講座(大分・トキハ会館) 参加者97名 講師(後藤裕(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生) 参加(工藤、青木、金子、坂本、手島、川村、足立直)</p> <p>09.24 第7回 第7期オリブの会 参加者2名 09.27 第14回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会 倫理委員:上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、 緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、 近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、 指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護部顧問)、 野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十音順)</p> <p>10.01 第18回 遺伝性疾患に関する出生前診断研究会(佐賀) 参加(城戸、大津、院長) 10.02 第8回 大分県母性衛生学会学術集会(大分) 参加(指山、坂本、手島、相澤、井澤、斉高、赤嶺、河野、関、越光、篠田、後藤裕、 上野) 発表:「タイミング治療患者の性生活に関する意識調査」(二宮睦) 大分産科婦人科内視鏡研究会(大分) 参加(井澤、松元、越光、後藤裕) 第174回 体外受精教室 参加者51名 参加(平松、長木、相澤、岡田、二宮、赤嶺、篠田) JISART 非配偶者間生殖医療カウンセラー研修(大阪) 講師(上野) 10.11 第151回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、伊藤節彦先生ご来院 10.14 大分県看護協会主催研修会「災害医療と看護~基礎編~」(大分) 参加(相澤、大津) 10.15 67th Annual Meeting of American Society for Reproductive Medicine (Orlando)</p>	<p>10.22 第14回 日本 IVF 学会(東京) 参加(小池、城戸) Morning Debate「卵巣刺激法に対する私の考え」座長:院長 10.24 大分県周産期研究会(大分) 参加(山路、平松、工藤、青木、西郡、足立小、越名、谷村、金子、小池、佐藤、城戸、 熊迫、長木、大津、指山、坂本、相澤、川村、井澤、足立直、二宮、斉高、赤嶺、 河野、関、越光、篠田、後藤裕、上野、河邊) シンポジウム発表:「生殖補助医療と母体搬送 ~初診時からの病歴・既往歴から原因を探る~」(院長) 10.28 第34回 大分市医師会産婦人科~内分・不妊・代謝~懇話会(大分) 参加(山路、平松、青木、西郡、足立小、越名、谷村、金子、小池、佐藤、城戸、 後藤裕、熊迫、大津、指山、坂本、手島、相澤、川村、井澤、足立直、 赤嶺、河野、関、越光、篠田、後藤裕、上野、河邊、院長) 「多嚢胞性卵巣症候群に関する最新情報」 (東京医科歯科大学大学院生殖機能協同学 教授 久保田俊郎先生)</p> <p>10.29 第8回 第7期オリブの会 参加者2名 10.31 日田市議会議員 居川太城氏 不妊治療の勉強のためご来院</p> <p>11.03 第1回 呼吸活性測定による品質評価の普及に向けた研究会(東京) 参加(熊迫) 講演:「呼吸活性測定による品質評価と臨床への手順について」(院長) 11.05 第47回 「赤ちゃん~今ならさっと授かる~」講座(大分・トキハ会館) 参加者89名 講師(後藤裕(看護師長)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生) 参加(山路、西郡、城戸、坂本、手島、足立直)</p> <p>11.06 第4回 2011年度(第5期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 講師(上野) 11.08 第152回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、伊藤節彦先生ご来院 11.10 第56回 日本人類遺伝学会(千葉) 参加(城戸、大津) 11.10 JISART フォローアップ部会(東京) 参加(上野) 11.12 第175回 体外受精教室 参加者65名 参加(山路、越名、後藤裕、相澤、二宮、赤嶺、篠田) 11.14 新職員 大塚麻依さん(受付) 11.15 院内全体研修:防災訓練(担当:研究室・培養室) 11.13 JISART 施設認定審査 審査員(上野) 11.16 京野アートクリニック(宮城) 院長 京野廣一先生院内見学のためご来院 11.17 第42回 大分市医師会医学大会(大分) 参加(山路、平松、工藤、青木、西郡、足立小、越名、谷村、金子、小池、佐藤、後藤裕、 熊迫、長木、指山、坂本、手島、相澤、井澤、足立直、二宮、赤嶺、関、越光、 後藤裕、河邊、院長) 発表:「夫が均衡型染色体転座46,XY,t(9;14)(q22.1;q32.1)を有した症例における 着床前診断の報告」(大津英子) 「タイミング治療患者の性生活に関する意識調査」(齊高美穂)</p> <p>11.17 JISART フォローアップ部会(大阪) 参加(上野) 11.19 第16回 日本生殖内分泌学会学術集会(東京) 参加(院長) 11.20 JISART 施設認定審査 審査員(大津) 11.26 第9回 第7期オリブの会 11.26 第37回 JISART 理事会(京都) 参加(院長)</p> <p>12.03 第60回 新患教室 12.04 大分県看護協会主催研修会「現在の生殖補助医療と不妊ケア」講演(院長) 12.04 第6回 2011年度(第6期)生殖心理カウンセラー養成講座(東京) 講師(上野) 12.07 Pre-Congress Course of Serono Symposia International Foundation: Individualized controlled ovarian stimulation and objective genetes and embryo selection for the 56th Annual Meeting of Japan Society for Reproductive Medicine (神奈川) 参加(院長) 12.08 第56回 日本生殖医学会総会・学術講演会(神奈川) 参加(上野) シンポジウム「生殖医療におけるがん・生殖医療(Oncofertility)の推進 -若年性患者のQOL向上を目指して-」座長:院長 シンポジウム講演:「悪性腫瘍未妊女性患者の卵子凍結について~我々の経験」(院長) 発表:「ヘン型遺伝子組換えFSH 製剤(コナールエフ&amp;reg;皮下注~ベス)使用における 簡便性、利便性、患者満足度の前方視線研究-患者ケアにおける コナードロヒン製剤使用時の痛み-」(院長) 「抗がん剤(シクロフォスファミド:CPA) 投与によるマウス受精能への影響」 (小池恵) 「胚移植不能:全胚凍結不能時の説明における胚培養士の関わり方」(城戸京子) 「凍結施行前と融解後における胚盤胞の形態および呼吸量の比較検討」(熊迫陽子) 「夫が均衡型染色体転座46,XY,t(9;14)(q22.1;q32.1)を有した症例における 着床前診断の報告」(大津英子) 「タイミング治療患者の性生活に関する意識調査」(二宮睦) 「自己注射におけるヒヤリ・ハット報告~重大事例を振り返って~」(後藤裕子)</p> <p>12.09 日本生殖医学会2011年度 第2回 生殖医療従事者講習会(横浜) 参加(院長) 12.10 第48回 ガーネットサークル 12.13 第153回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、伊藤節彦先生ご来院 12.17 第176回 体外受精教室 12.22 忘年会 12.24 クリスマス会</p>
<p>10.01 第18回 遺伝性疾患に関する出生前診断研究会(佐賀) 参加(城戸、大津、院長) 10.02 第8回 大分県母性衛生学会学術集会(大分) 参加(指山、坂本、手島、相澤、井澤、斉高、赤嶺、河野、関、越光、篠田、後藤裕、 上野) 発表:「タイミング治療患者の性生活に関する意識調査」(二宮睦) 大分産科婦人科内視鏡研究会(大分) 参加(井澤、松元、越光、後藤裕) 第174回 体外受精教室 参加者51名 参加(平松、長木、相澤、岡田、二宮、赤嶺、篠田) JISART 非配偶者間生殖医療カウンセラー研修(大阪) 講師(上野) 10.11 第151回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、伊藤節彦先生ご来院 10.14 大分県看護協会主催研修会「災害医療と看護~基礎編~」(大分) 参加(相澤、大津) 10.15 67th Annual Meeting of American Society for Reproductive Medicine (Orlando)</p>	<p>著書 院長 「生殖医療の現状」『産科と婦人科』第78巻第7号(診断と治療社) 「IVMの現状と将来」『産科と婦人科』第78巻第8号(診断と治療社) 「ヒト胚のクオリティー評価」『卵子学 Oocyteology』(京都大学学術出版会) 「ヒト卵管液の組成」『生命の誕生に向けて』(第二版) 「Infertility」『Encyclopedia of Disability』(丸善出版)(掲載予定) 「ARTにおける加齢の問題」『臨床婦人科産科』(医学書院)(執筆中) 「生殖心理カウンセリング」『図説よくわかる臨床不妊症学 最新不妊症治療ガイド(仮)』(中外医学社)(執筆中)</p> <p>論文 (井澤里砂) 「排卵誘発剤の在宅注射に対する夫婦間の意識調査~配偶者(夫)による排卵誘発剤の 在宅注射を推奨して-」産科と婦人科 78(9):1133-1138,2011</p>

**妊娠報告件数**  
(2011.6.1~2011.11.30)

体外受精、顕微授精等  
**114件**  
\*  
その他(体外受精以外)  
**83件**  
計 **197件**

**編集後記**

アメリカ生殖医学会に参加させていただきました。  
キーウエストに立ち寄った際には、大嵐!  
夕食を終えた後、外に一步出ると膝下までの洪水でした。  
靴を脱いでホテルまで帰るといふ、忘れられない思い出となりました。  
学会では、院長先生が英語で発表をされましたが、私たちスタッフも頑張らなければと思いました。(E・O)

